

慶應義塾大学文学部 3つの方針

【人文社会学科・民族学考古学専攻・学士（史学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、民族学、考古学及び関連諸分野に関わる研究史、理論、分析方法を学び、具体的な研究に取り組むことにより、諸事象及び諸問題について歴史を軸とした幅広い視点から実証的に探求し、論理的に理解できる能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：民族学や考古学あるいはそれらの関連分野の研究において必要となる研究史と理論に関する基礎的知識。

資質・能力目標(2)：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

資質・能力目標(3)研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文（卒業論文）として論理的にまとめる能力。

資質・能力目標(4)：上記(1)～(3)のために必要な語学能力。

資質・能力目標(5)：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. フィールドワークも含めて、その研究方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科民族学考古学専攻（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、民族学、考古学、関連諸分野に関わる多様な科目群を設置する。

- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実習科目、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

民族学考古学専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 民族学、考古学、あるいは関連分野の研究において必要となる研究史と理論についての基礎的知識。

→ 民族学、考古学、関連分野の基礎的知識を習得するための概論科目「考古学Ⅰ・Ⅱ」「民族学Ⅰ・Ⅱ」「人類学概論Ⅰ・Ⅱ」「博物館学概論Ⅰ」を設置する。また、民族学、考古学、関連分野の具体的な研究成果とその方法を学び、併せて学際的視野の習得を目指す、より専門性の高い科目群（「民族学考古学特殊」）を設置する。

資質・能力目標(2)： 個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

→ フィールドでの調査方法、一次資料の分析方法を学び、調査に必要なコミュニケーション能力を高めるため、各種実習科目群（「民族学考古学研究法」「博物館学実習」）を設置する。また、フィールドにおけるより具体的な調査分析方法については、個別指導を行う演習科目群（「民族学考古学研究会」）において指導する。加えて、教員によって組織される国内外の野外調査等への参加も推奨する。

資質・能力目標(3)： 研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文として論理的にまとめる能力。

→ プレゼンテーションとディスカッションによる問題解決を通し、論理的思考力と構成力、プレゼンテーション能力を養成するとともに、研究成果を卒業論文としてまとめることを目指す、個別指導演習科目群（「民族学考古学研究会」）を設置する。なお、プレゼンテーション能力を高めるための指導は、実習科目（「民族学考古学研究法」）でも行う。

資質・能力目標(4)： 上記(1)～(3)のために必要な語学能力。

→ 欧文献の講読を通して、民族学、考古学及び関連分野の理論と方法を学ぶ語学科目（「原典講読」）を設置する。

資質・能力目標(5)： 大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

→ 専攻の専門教育のカリキュラム全体での学び、及び卒業論文の執筆を通してこの資質・能力を高めることを目指している。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。

- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考查によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。